

第1回幹事会

■ 日時：令和7年8月7日（木）10:00～12:00

■ 場所：四日市商工会議所3階大会議室（オンライン併用）

■ 出席者

（有識者）

村山顕人（オンライン）、松本幸正（オンライン）、有賀隆（オンライン）

（交通関係者）

樋口竜也（代理、オンライン）、高田和昭、小瀬古恵則（随行）、伊藤眞郷

（商工関係者・大規模権利者・事業展開企業）

木室康弘（オンライン）、秋田和伸（代理）、鈴木主計、切中義憲、井上貴昭（随行、オンライン）、吉田健（オンライン）、安達勝也、佐野貴規（随行）、臼井智博、三浦大樹（随行、オンライン）

（行政）

伊藤秀則（オンライン）、雲匡司（オンライン）、奥村未来（随行、オンライン）、荒木秀訓

（賛助会員）

中村出、小松萌、福田泰之、奈良岡龍一

（オブザーバー）

国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設安全対策官 高濱康亘（オンライン）

国土交通省 都市局 都市計画課 都市計画調査室 係長 檜林哲也（オンライン）

国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長 後藤直紀（オンライン）

国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課長 江川晃平（オンライン）

国土交通省 中部運輸局 三重運輸支局 首席運輸企画専門官 森慶之

■ 次第

1. 開会

2. 議題

・議決事項 第1号 令和6年度歳入歳出決算について

・議題 第1号 今年度のスケジュールについて

・議題 第2号 令和6年度補正・令和7年度スマートシティ実装化支援事業について

・議題 第3号 スマートシティ実装化支援事業の進捗状況報告

・議題 第4号 ワーキンググループ（WG）の実施報告

3. 閉会

■ 内容

【1.開会】

<進行>

本日は、ご多用中にも関わらずご出席頂き、ありがとうございます。ただ今から「四日市スマートリージョン・コア推進協議会」の令和7年度第1回幹事会を開会いたします。本日の会議を進行させていただきます、四日市市政策推進部政策推進監の中尾です。よろしくお願いいたします。はじめに、お手元の資料をご確認ください。全部で7種類の資料と2種類の別添資料をお配りしています。過不足ありましたら、挙手にてお知らせください。それでは、冒頭挨拶として、協議会会長である荒木副市長より一言お願いいたします。

<荒木副市長>

皆様こんにちは。本年4月から本協議会の会長を務めさせていただいております、四日市市の副市長の荒木でございます。よろしくお願い致します。本日は、大変お忙しい中ご出席頂きましてありがとうございます。本日の議題でございますが、議決事項と致しまして、令和6年度の実施事業の収支決算につきまして本協議会でお認め頂きたく、ご提案させていただきます。また報告事項と致しまして、今年度行っていく事業の実施内容、スケジュールについてご報告させていただきます。また、前回同様に各ワーキンググループの取り組み状況についてご報告させていただきます。本市の中央通りの再編事業でございますが、その事業の象徴ともいえる近鉄四日市駅前の円形デッキがいよいよ12月の竣工に向け全景を表してきたという状況でございます。この再編事業に合わせて取り組みが進むスマート化につきましても、AIカメラや環境センサといったスマート・インフラから取得したデータの可視化サービス、四日市版MaaS、沿道空間マネジメントシステムやデジタルインフラ台帳の構築など、いよいよ3年間の実証実験も終わりに近づき、今年度末の実装化に向けて取り組んでいきたいと考えております。今年度におきましても、本市のスマートシティ実現に向けて、引き続き皆様とともに取り組んでいきたいと思っておりますので、本日も皆様と忌憚のない意見交換をさせて頂きたいと思っております。簡単ではございますが、私の冒頭の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い致します。

<進行>

ありがとうございました。

続きまして、本来であればご出席の委員・企業・団体の皆様のご紹介をさせて頂きたいところではございますが、時間の関係もございますので、別添の出席者名簿に換えさせていただきます。

【2.議事】

<進行>

本日の議題は、はじめに四日市スマートリージョン・コア推進協議会に係る議決事項を予定しています。続いて、今年度のスケジュールの確認と令和6年度補正予算、令和7年度スマートシティ実装化支援事業の採択報告、実装化支援事業の進捗状況、ワーキンググループの実施状況についてご説明させていただきます。ご質問やご意見を頂戴する時間は、議題ごとに適宜設けさせていただきます。それでは早速ですが、最初の議題を進めさせていただきます。四日市スマートリージョン・コア推進協議会に係る令和6年度収支決算についての決議事項でございます。

<市政策推進課>

資料Iに基づいて説明

<進行>

続きまして、令和6年度監査報告につきまして、監査委員を代表して、株式会社三十三銀行 白井様よりお願い致します。

<株式会社三十三銀行>

資料Iに基づいて説明

<進行>

ありがとうございました。本件に関してご質問がある方は挙手にてお願いいたします。

よろしければ、議決事項Ⅰにつきまして本協議会規約第7条第5項の規定に基づきご承認をお願いしたいと思います。ご承認頂ける方は挙手をお願いいたします。

<会場>

挙手確認

<進行>

会員総数の過半数を超えるご承認を頂きましたので、原案通りの議決とさせて頂きたいと存じます。

議決事項については以上となりますので、次からは報告事項に移ります。ここからの進行は座長にお願いしたいと思います。村山先生、どうぞよろしくお願いいたします。

<村山先生>

承知いたしました。よろしくお願い致します。まず初めの議題は、令和6年度のスケジュールの確認です。詳細のご説明は(株)日建設計様よりお願いいたします。

<日建設計総合研究所>

資料2に基づいて説明

<村山先生>

ご説明ありがとうございました。スケジュールについてご意見やご質問のある方は、挙手のうえご発言願いたいと思います。

無いようですので、次に進みたいと思います。

次の議題は国土交通省都市局公募の「令和6年度補正及び令和7年度スマートシティ実装化支援事業」の公募結果および実装化支援事業の進捗の2件についてのご報告となります。詳細は(株)日建設計様よりお願いいたします。

<日建設計総合研究所>

資料3、4に基づいて説明

<村山先生>

ご説明ありがとうございました。資料3の「令和6年度補正及び令和7年度スマートシティ実装化支援事業」の公募結果と、資料4のスマートシティ実装化支援事業の進捗についてご意見やご質問がある方は、挙手の上、ご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

私から一点質問してよろしいでしょうか。資料4のP.7、「事業① 利活用空間活性化ツールの構築」のなかで、データプラットフォームに様々なデータを蓄積し有料サービスとして提供していくというところで、マネタイズの可能性に期待が寄せられるところですが、この図からは、ある程度こちらでデータを加工して事業者や行政や求めている方に提供するというイメージですが、元の生のデータを有料で、例えば研究機関の皆さんに提供するという可能性はあり得ますでしょうか。

<日建設計総合研究所>

ありがとうございます。いまご指摘頂いたような、どういった形での提供が効果的か、利用者のニーズに答えられるかという辺りを現在検討しているところです。対象となりそうなペルソナを設定しており、例えば民間事業者、不動産事業者、広告代理店、それから村山先生からお話がかった学識や研究者の方々等々、それぞれの方々向けにどういったデータの提供の仕方が適切なのか、期間がどれぐらい必要なのか、このデータとこのデータを組み合わせるといいのでは、など色々なニーズがあるのではと思っています。それ等

の仮説も含めて今年度検証していきたいと考えているところです。

<村山先生>

分かりました。ありがとうございます。四日市市のプロジェクトなので、四日市市の活性化とか環境の改善に貢献するようなことも重要ですし、同時に国の補助金で動かしているプロジェクトでもあるので、全国的にこれを使ってくださる方を探して、上手く活用していくことが求められるのではと思いました。

他にいかがでしょうか。では、次に進みます。また何かありましたら、最後にお聞きしたいと思います。

議題4でございますけれども、ワーキンググループの実施状況に関するご報告です。前回の幹事会以降に各ワーキングで実施された内容を報告して頂きたいと思います。それぞれのワーキングの代表企業様からご説明いただこうと思いますので、初めにデータプラットフォームワーキングの代表であるシー・ティー・ワイ様からお願いいたします。

<シー・ティー・ワイ>

資料5に基づいて説明

<村山先生>

ご説明ありがとうございました。続きまして、モビリティワーキングの代表でありますマクニカ様からご説明をお願いいたします。

<マクニカ>

資料6に基づいて説明

<村山先生>

ご説明ありがとうございました。2つのワーキングともに、非常に充実した内容を展開されていて、順調に進んでいると感じました。それでは、この2つのワーキングの実施状況についてご意見、ご質問ある方は挙手の上ご発言いただけないでしょうか。

私から一点、データプラットフォームワーキングの資料5のP.6、この公園DXチャレンジはとても興味深い取り組みだと思って拝見しておりました。市民公園や中央通りの先行整備区間、近鉄四日市駅から西側の区間で、既にいろいろなデータが取得されていると思います。社会実験もいくつかありましたが、そういったデータや社会実験の結果というのは、このワークショップでどのように活用されるのでしょうか。

<シー・ティー・ワイ>

人流や環境データに関しまして、市民公園に環境センサが1台整備されているのに加え、市民公園の周辺で人流データも収集しています。今年の5月に一部市民公園周辺で社会実験もありましたが、その際の人流データ、人の動きや流れ、また滞留データも取っておりますので、社会実験イベントによってどういった人の行動変容を起こしたかという点を、振り返りができるようなデータとして活用できるのではと考えております。

<村山先生>

最近、私自身も気候変動の研究をしているのですが、四日市では公園の環境センサのデータがあるので、単純に1年を通してどういう気象の状況なのかを知ること自体もすごく有用だなと思っていますので、是非いろんなデータを活用して、面白いワークショップを実施して頂きたいと思いました。

他にいかがでしょうか。はい。松本先生お願いします。

<松本先生>

ご説明ありがとうございました。それぞれのWGが、今年度もいろんな取り組みをされるよう期待しており

ます。データプラットフォームの災害情報の発信において、今回は民間のデジタルサイネージ等との連携を行うということで、楽しみにしていますが、一方で、この情報の内容は結構大事だと思っています。災害の種類によって、どの内容をどのタイミングでどういう形で出していくかはだいぶ違うのではないかと思います。今どんな検討の段階なのでしょう。

<シー・ティー・ワイ>

災害情報連携に関しては現在最終調整中ではございますが、弊社が行っているケーブルテレビ事業の中で地域の皆様の方に避難場所や、例えばミサイルが発射されたといった緊急情報をテレビで常日頃連携しながら発信させて頂いております。今回に関しましては、主に実空間における情報発信ということで、市民公園や中央通りに来ていただいている方に、津波警報など比較的緊急度の高いものにフォーカスを当てて、すぐに避難場所への移動を促すような情報に拘って対応したいと思っております。今後、中央通りに来られる外国人、市外県外の方が増えてくると思いますので、そういった方が混乱がないよう、精度の良い情報を、迅速に正しく提供して、避難場所に速やかに移動して頂けるようなことを考えております。

<松本先生>

なるほど、ここには「災害直後の災害情報コンテンツを自動で提供し」と書いてありますが、今回は、事前の避難情報などを緊急的に提供するという方向で考えられているということですか。

<シー・ティー・ワイ>

はい。仰る通りです。

<松本先生>

先ほどの繰り返しになりますが、災害の種類によって何をどういう形で情報提供するかという点はすごく大事なことで、そこに的を絞った形でやっておかないと意味のないものになってしまう可能性があるのです。使える情報提供をしてもらうといいなと思いました。今ご説明頂いたように、事前の避難情報を的確に発出するという目的をまずは達成いただければ良いのではと思いました。ありがとうございます。

それから続きまして、モビリティワーキングの方で、MaaSに関して一生懸命作っていただいている、これも期待したいと思っています。資料6のP.3で書かれていました周知活動の実施というところ、やはりここが一番の課題だと思います。皆さん、今既存のアプリ等を使いながら、例えばまちの情報を得たり、あるいはルート検索したり、それぞれの方が使い勝手のいいものを既に使っている中で、新たにこの四日市版MaaSを使ってもらうためには、何か魅力が必要だと思います。他と差別化されるような点が無いと単に周知だけでは難しいのではと思っているのですが、その辺りいかがでしょうか。要は、他のグーグルマップやインスタ等に勝てる、キラーコンテンツのようなものはありますか。

<マクニカ>

ありがとうございます。仰る通りで現在キラーコンテンツを探しておりますが、いくつかアプローチがあると思っています。ひとつは、利用者や四日市の関係者の方々にアイデアをもらって、システムの機能向上やコンテンツを魅力的にするというところに反映させて頂きたいと思っています。あとは、認知度向上という点では、海外でよく事例を聞きますが、個人的にはインフルエンサーの活用で利用者が増えるというような方向もあるのではと思います。四日市でも、先週ケーブルテレビでお祭りのなかで森市長とザブングルの加藤さんが漫才をやっているのを拝見しました。ザブングルの加藤さんが四日市出身ということもありますが、そういった方々にも利用して頂きながら、そういう人が使っているのなら自分も使ってみようか、というアプローチも含めて、利用者を増やしていく様々な動きが必要では、と感じております。

<松本先生>

ありがとうございます。すごく大事な視点だと思います。何より多くの方に使っていただいて、その使い勝手をフィー

ドバック頂きながら改善を進めていき、それによってどんどん使い勝手が良くなって、もっと使ってもらおうという好循環に入っていければいいなと思っていますので、今年度最終年度ということで実装に向けて、是非頑張ってください。期待しております。

<マクニカ>

ありがとうございます。

<村山先生>

有賀先生お願い致します。

<有賀先生>

ご説明頂きありがとうございます。データプラットフォームWGの内容についてお聞きしたいことがございます。資料5のP.6で公園DXチャレンジの話を説明頂きましたが、ここで、これまでに無いようなサービスを公共空間側で展開していく際に、どのようにデータプラットフォームが使えるかといったことが今年度試行されると思います。その際、公共空間に設置されているセンシングの仕組みを使ってリアルタイムな人流データを活用していく一方で、事業③の沿道空間利活用マネジメントシステムの方では、どちらかというと過去のイベント時、例えば5月31日、6月1日にあった社会実験の際の人出、規模などのデータを活用して、将来的な空間の利活用に反映するための仕組みづくりを進めています。このように人流データ1つ取っても、元になるデータはシェアできると思うのですが、アウトプットとして使い方が違って来る時に、例えばリアルタイムと過去のデータなど、それぞれアウトプットの仕方、フォーマット等をうまく加工したり変えていくといったアイデアは、今後データの横連携を進めていくうえで考え得るのでしょうか。

<シー・ティー・ワイ>

貴重なご意見ありがとうございます。データプラットフォームワーキングの公園DXチャレンジや事業①の利活用空間における人流データ等活用に関しましては、主に市民目線でデジタルマップ等に混雑度合いを可視化するというサービスとしてあり得ると思います。事業③の沿道空間の利活用においては、主に空き店舗や空きスペースにキッチンカーを置いたりパフォーマンスして頂くことになろうかと思いますが、実際に空間を活用して頂いた事業者さんなどに対して、人流や混雑度などの変化を通じた空間の価値や、今後に向けた振り返りという点では、双方で連携できるのではと考えています。

<有賀先生>

なるほど。資料5のP.6では、ワークショップ等を通じて、社会実験での実際の人流や滞留等のデータを元にしながら、新しいサービス、いろんな可能性を今年度検討していくという捉え方でよろしいですか。

<シー・ティー・ワイ>

仰る通りです。その部分を検討して、新しいデータの利活用を進めてまいりたいと思っていますので、またご意見等よろしくお願いいたします。

<有賀先生>

どうもありがとうございます。

<村山先生>

有賀先生ありがとうございました。他にご意見ご質問等ありますでしょうか。

それでは本日の議題は以上になりますが、まだ少し時間もありますし、全体を通してのご質問ご意見、あるいは今後の展開に向けていろんな示唆をいただければと思います。よろしければ、折角集まっていたいでいますので、全員に一言ずつご発言いただければと思っています。有識者の先生方は後でコメントする場がありますのでスキップさせていただいて、出席者名簿の順で近畿日本鉄道の代理出席の樋口様からお願いできますでしょうか。

<近畿日本鉄道>

近畿日本鉄道の樋口でございます。弊社としましては四日市の駅前広場の整備工事につきまして、線路に近接しての工事等が発生すると思いますので、事業を円滑に進めるように、できる限り協力していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

<村山先生>

どうもありがとうございます。続きまして、三重交通の高田様お願いします。

<三重交通>

今日はありがとうございます。こういった様々な取り組みを進めて頂く中で、私共も協力させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

<村山先生>

ありがとうございます。三岐鉄道の伊藤様お願いします。

<三岐鉄道>

三岐鉄道の伊藤です。弊社の方もデータプラットフォーム、モビリティ、両ワーキンググループにも参加させて頂いています。何かご協力できることがあれば、もっとご協力していきたいと思います。私、生まれも育ちも四日市なので四日市をどんどんよくしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

<村山先生>

ありがとうございます。近鉄百貨店の木室様、よろしくお願いいたします。

<近鉄百貨店>

近鉄百貨店の木室でございます。本日はありがとうございます。弊社も四日市駅前に構えておりまして、今回の中央通りの再編に伴い、いろんな事業にも非常に興味を持ちながら、また一部参画をさせて頂いております。弊社でできることにつきましては今後とも積極的に参画していきたいと思っておりますし、また四日市版MaaSの構築の中で店舗の情報等も積極的に関わっていければと思っております。どうもありがとうございます。

<村山先生>

ありがとうございます。四日市商工会議所の秋田様お願いします。

<四日市商工会議所>

四日市商工会議所の秋田です。今日はありがとうございました。先ほどモビリティワーキンググループでもご報告頂きました「みなとまちづくり」の方でも商工会議所の方でいろんな企画を考えたり議論検討しておりますので、是非モビリティワーキンググループの取り組みとも具体的に連携の相談をさせて頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

<村山先生>

ありがとうございます。ディア四日市の鈴木様お願いします。

<ディア四日市>

私も、まちづくりの中で空き店舗対策ということを検討しているわけですが、空き店舗対策に今回の取り組みをいかに利用させて頂くか、そして広く皆さんに知ってもらえるような、広めて頂けるような機会を提供できることを期待しております。

<村山先生>

どうもありがとうございました。それでは近鉄グループホールディングスの切中様お願い致します。

<近鉄グループホールディングス>

近鉄グループホールディングス切中です。ご説明ありがとうございました。先生方からもありました通り、まだ実装後の話にはなりますが、それぞれの事業でウェブサービスなり何らかの形でローンチしていくと思いますが、これをいかに知って頂くか、周知をどうしていくか、早い段階から動いていく方がいいと思います。機能拡充も重要だと思いますし、周知方法もインフルエンサーを活用というお話もありましたが、いろんなリアルなイベントでも活動頂いていますので、サービス開始等の際にはその場でQRを渡すなどの周知方法もあるのかなと思いました。

<村山先生>

ありがとうございました。それでは近鉄不動産の吉田様お願いします。

<近鉄不動産>

近鉄不動産の下山と申します。吉田に代わりましてご報告させていただきます。本日はありがとうございました。我々で何かできることがありましたらご協力させていただきますので、引き続きよろしくお願い致します。

<村山先生>

ありがとうございます。それではシー・ティー・ワイの安達様お願いします。

<シー・ティー・ワイ>

シー・ティー・ワイの安達です。データプラットフォームワーキングの幹事会社としては、取得したデータをいかに市民の方に分かり易く可視化して発信していくかということと、蓄積したデータをどうやって分析し利活用して頂き、次の動きにつなげて頂くかという点に積極的に取り組んでいきたいと思います。もう一つ、地元の放送メディア事業者としては、市民公園や円型デッキなど、目に見える形になってきているものを、市民の方と来街者の方に情報発信すること、未来の四日市に向かって進んでいるところを見せていくということについても積極的に関わっていければと思っております。

<村山先生>

ありがとうございました。三十三銀行の白井様お願いします。

<三十三銀行>

三十三銀行の白井でございます。本日はありがとうございました。私どもの方もデータプラットフォームワーキンググループに参加して積極的に関与させて頂きたいという点と、周知、プロモーション等の情報発信の部分につきましては、地元の金融機関ということでもいろいろお手伝いができるのかなと考えてございますので、また引き続き積極的に会話をさせて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

<村山先生>

よろしくお願いします。続きまして行政の皆さんです。国土交通省三重河川国道事務所の伊藤様、お願いします。

<三重河川国道事務所>

三重河川国道事務所の伊藤でございます。本日はどうもありがとうございました。実は私四日市市民でもあつて参加させて頂きましたが、自分の立場に加えて市民としての立場も含めて、MaaSなどについては市民、市外の方も含めてシームレスな予約ができて本当に地域が潤っていくといいなと期待をしております。三重河川国道事務所ではバスターミナルの事業もさせていただいておりますので、MaaSやモビリティも含めて是非連携させて頂きたいと思いますので、引き続きよろしくお願い致します。

<村山先生>

ありがとうございます。続きまして、三重県県土整備部都市政策課の雲様よろしくお願いします。

<三重県県土整備部都市政策課>

三重県県土整備部都市政策課の雲と申します。今日はどうもありがとうございました。初めて会議に参加させて頂いたのですが、私も四日市市民の1人でございます、いつも近鉄四日市の駅前を通りながら、とてもワクワクしてまちを見ているという状況でございます。今回報告をお伺いしまして、計画に基づいてそれぞれの事業で仮説、実証実験と次に活かすことなど、事業をしっかりと進めておられまして、大変素晴らしいと思いました。令和7年度も事業を進めていくようお願いしたいと思ひますし、三重県としても協力できることがあればしていきたいと思ひておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

<村山先生>

ありがとうございます。それでは副市長荒木様は最後をお願いすることとして、賛助会員の日建設計の中村様をお願いします。

<日建設計>

中村です。ありがとうございます。事業④デジタルフラ台帳の方を担当させていただいております。今年度、実装化に向けてより使いやすいものになるように努めてまいりますのでよろしくお願いします。このデジタルインフラ台帳というのは、地下埋設物の情報ということで考えますと、国交省様がPLATEAUで取り組んでいたりと、経産省様がデジタルライフライン全国総合整備計画等で取り組んでいるということで、そのような国の動きに対しても情報を把握しながら、齟齬が出ないように形で取りまとめていきたいと思ひております。また、今年度業務のなかでガイドラインとマニュアルの作成がございますけれども、来年度以降の実装に向けてしっかりとルール化していく点が大切だと思ひますので、わかりやすいルールをまとめていきたいと思ひております。この辺りにおいては、埋設物事業者様にも共有して利用していくという合意形成が重要だと思ひますので、しっかり取り組んで皆さんの使いやすいデジタルインフラ台帳になるように実装化へ進めていきたいと思ひております。よろしくお願いします。

<村山先生>

ありがとうございます。早稲田大学の小松様をお願いします。

<早稲田大学>

早稲田大学の小松です。事業③の沿道空間利用マネジメントシステムの進捗としましては、5月、6月の社会実験を経て、今まさに、システムの正式版の構築に取り組んでいるところです。既に四日市の皆さんは中心市街地でどんなことができるか、実空間がどんなところだ、等はお存じだと思うのですが、このシステムの利用を通して、こういう新しい使い方ができるということを知って頂いて、まちづくりやまちそのものに興味を持って頂けるツールとしても作っていったらいいなと思ひております。先ほど有賀先生からお話もありましたように、他の事業との連携に関して、事業③としても検討したいと思ひておりますので、引き続きよろしくお願い致します。

<村山先生>

ありがとうございます。マクニカの福田様よろしくお願いします。

<マクニカ>

マクニカ福田です。本日はありがとうございました。モビリティワーキンググループを実施させていただいておりますが、特にデータプラットフォームワーキンググループとの連携が非常に重要だと思ひております。あとは、我々の構築しているものは、最終的にやはり市民の皆様、利用者の方々のご意見が重要だと思ひておりますので、その意識を持ちながら、誰のためにやっているかということを考えながら、引き続き議論と構築を進めていければと考えております。よろしくお願いします。

<村山先生>

どうもありがとうございました。それでは最後に副市長の荒木様よろしく申し上げます。

<副市長>

本日は、大変いろんなご意見を頂きましてありがとうございます。私ども市といたしましては、実証実験を積み重ねてきて、3年間の実証実験が今年度で終了し、今後実装化していくにあたっては、これまで整備してきたデータやインフラを効果的に活用し、どのように最大限の効果を見出していくかといった運用面についても合わせてこの期間に検討していく必要があると思っております。当然のことながら、それぞれ4つの取り組みに関しても、有賀先生が仰って頂いていましたが、運用面における連携も併せて検討していくことが必要と思っております。今後におきましても皆様からのご意見ご協力の方、どうぞよろしくお願いいたします。

<村山先生>

どうもありがとうございました。それではここで進行を事務局へお返しいたします。議事進行にご協力頂きましてありがとうございました。

<進行>

村山先生ありがとうございました。それでは、よろしければ全体を通してご参加頂いております先生方から改めてコメントを頂ければと思います。それでは最初に松本先生からお願いできますでしょうか。

<松本先生>

松本でございます。皆さん、すごく前向きなご意見を言って頂きましたので、それに尽きるなと思っております。今回こういった形で国の補助金を得ながら、いろんな取り組みが進んできたわけですが、その1つの大きな成果は、やはり皆さんがこうやって一緒になって、四日市のまちづくりに取り組んでいることだと思っています。残り1年まだありますが、是非、皆さんと一緒に取り組むというこの機運を高めて頂くことがすごく大事だと思っていますので、さらにもっと連携をという意見もありましたが、できることはまだありますので、是非そこを進めて頂ければと思っています。来年度以降の実装に向けては、やはりマネタイズが一番の重要なポイントになると思うのですが、それ以外にもいろんな成果があり得ると思っていますので、そんなことも意識しながら進めて頂ければと思っています。この1年間期待しております。

<進行>

松本先生ありがとうございました。次に有賀先生コメントをお願いいたします。

<有賀先生>

本日資料で説明頂いたとおり、R7年度のそれぞれの取り組みという意味で言えば、常に新しい課題を発掘しながらそれを年度内のKPIに反映をして達成する、それをずっと持続しながらこの事業としての最終目標に進んでいくということで、非常に着実に進んでいるのではないかと思います。そしてその先という意味で言うと、スマートの実装化の取り組みを進めていること自体が、中心市街地や都心のポテンシャルの拡張、発展に繋がりが、それが対外的にも発信されていくこと自体が非常に大事なことであると思います。次のステップにおいては、是非中心市街地の中の既成市街地、特に中央通り公共事業、その周辺の公園、鶉の森公園、市民公園、諏訪公園に加え、その先の諏訪栄のエリアなど既成市街地側のステークホルダーの方々からもコンテンツに関するいろんな情報を出して頂けるよう、むしろ自分たちから出したいという前向きな積極的なやりとりに相乗的に繋がるように周知をしていく、実際に関わってもらうようなのりしろを作っていくことが重要だと思います。

当然ながらエリアマネジメントという大きな枠組みの中で考えれば、従来の建物あるいは商店の空き店舗やオフィスも含めた建物の空き床などの未利用空間の利活用をする際、従来の不動産の賃貸契約のあり方を変えていく必要もあるかもしれない。いわゆる敷金礼金を払って、何カ月分かのテナント賃貸料を払ってないと利用できない、あるいは一回その契約をしたら何年間いなきゃいけないといった従来の慣行や賃貸テナントの利活用の仕組みも変えていきながら、例えば小規模なスタートアップの交流を促進するような使い方がもっと現実的

にできるかもしれない。事務所登録ができるようなサービスに加えて、例えば床の賃貸についてもシェアできるような単位での賃料とか、そういうものを敷金礼金無しで、あるいは1か月前、2ヶ月前の通知で入退去が自由になるとか、もう少し柔軟な仕組みについて、街側も含めて考えていくようなことで、ここで想像しているような様々なスマート化のプラットフォームをうまく活用した街側の使いこなし方ができるようになっていくのだろうと思います。ただそのためには、やはり従来のルールも変えていく必要も当然出てくるので、その辺りの先導的、パイロット的な方法論にこのスマートの取り組みがうまく転換できるようになっていくと、本当に実装化される。しかも中央通りの周辺の規制市街地、街全体にも広がっていくと思いますので、そういったことを今後の大きな目指す方向性として共有化していくことは、非常に大事なことだと思います。公共空間においては、その動きが既にスタートし始めていて、従来の公共空間の利活用の縛りではないいろんな柔軟な利活用の仕組みを考えたり、あるいはその実証実験をしたりフィードバックをしていくということが進んでいるので、それを街側に広げていくということなのかと思います。是非そういう方向でも、この事業の波及効果が出るような進め方ができるといいなと思いました。

<進行>

有賀先生ありがとうございました。最後に村山先生コメントお願い致します。

<村山先生>

今日もありがとうございました。国のスマートシティ実装化支援事業については、今年度が最終年度ということで、振り返ると何もないところからよくここまで充実した内容を検討して、4つのプロジェクトが立ち上がったと思います。最終年度ですので、今までの成果をまとめつつも、来年度以降の展開に向けた重要なステップになると思います。国のプロジェクトでもありますので、四日市の街の活性化とか再生に貢献するだけでなく、国全体の先導的な役割を担っていると思います。中央通りは少しずつ西側から竣工しており、視察もだいぶ増えているとお伺いしていますけれども、このスマートリージョン・コアについても、この3年間で構築したインフラと仕組みを全国的に発信しつつ、外部からもいろいろなサポートを受けながら進めていくのがいいのかなと思いました。先ほど、いろんなデータについては研究機関の人たちが多分関心を持ってくれるという発言もいたしましたけれど、四日市でやっていることを外部に発信して、このスマートシティの関係人口を増やしていくということも最終的には四日市の活性化に繋がると思いますので、是非そういったことも意識して、最終年度の事業が展開できればと思いました。

<進行>

村山先生ありがとうございました。先生方から頂きましたご意見につきましては、本協議会としましても、今後の取り組みにしっかりと活かしてまいりたいと思います。それでは以上をもちまして、令和7年度第1回幹事会を閉会とさせていただきます。

なお、第2回の幹事会につきましては、改めて事務局からご案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。本日は忌憚のないご意見頂きまして、また進行にご協力頂きまして、誠にありがとうございました。

以上